

第1 少年非行の概況

POINT!

- 刑法犯少年
278人（前年比：124人 **減少**、30.8% **低下**）
- 特別法犯少年
71人（前年比：11人 **増加**、18.3% **上昇**）
- 触法少年（刑法）
88人（前年比：13人 **減少**、12.9% **低下**）
- 触法少年（特別法）
8人（前年比：4人 **増加**、100.0% **上昇**）
- ぐ犯少年
13人（前年比：7人 **減少**、35.0% **低下**）
- 不良行為少年
9,455人（前年比：64人 **増加**、0.7% **上昇**）

1 本県の概況

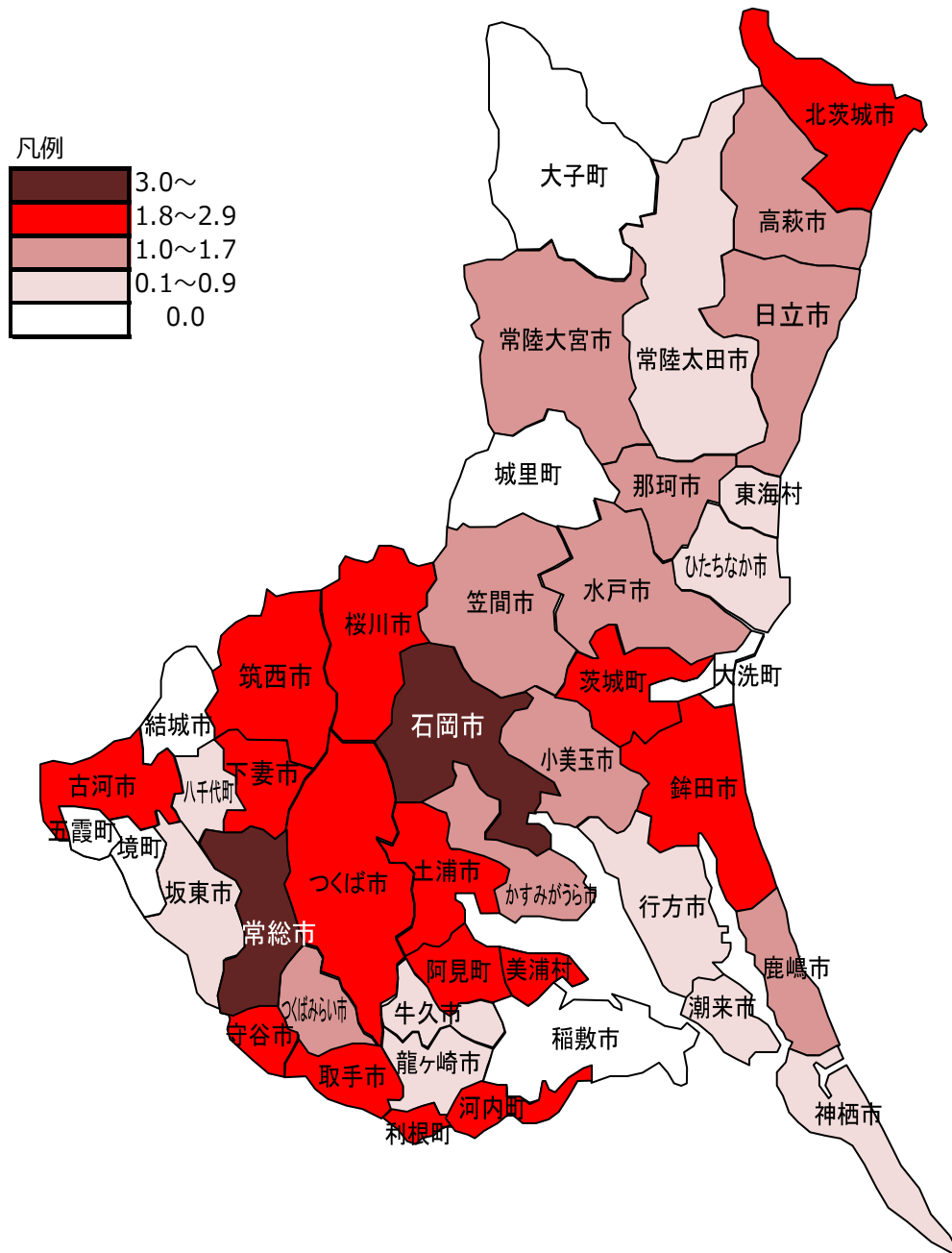
(1) 非行少年等の検挙・補導状況の推移

- 令和元年中に検挙・補導した非行少年及び不良行為少年の総数は、9,913人で、前年に比べ65人(0.7%)**減少**しました。
- 刑法犯少年は9年連続の減少となり、戦後最少を更新しました。

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
少年 非 行	総数	15,083	12,765	11,358	9,327	9,128	13,783	12,233	10,459	9,978	9,913	-65	-0.7%
	うち女子	3,149	2,654	2,297	1,806	1,541	2,435	2,203	2,085	2,212	2,574	362	16.4%
	総数	2,099	2,052	1,763	1,547	1,277	1,116	895	728	587	458	-129	-22.0%
	うち女子	421	336	260	205	127	131	92	90	87	69	-18	-20.7%
	犯罪少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
	うち女子	382	280	214	156	96	78	60	50	56	28	-28	-50.0%
	特別法犯少年	107	123	120	94	91	86	75	85	60	71	11	18.3%
	うち女子	10	10	8	13	8	16	7	12	7	14	7	100.0%
	触法少年（刑法）	161	250	220	215	174	157	142	108	101	88	-13	-12.9%
	うち女子	21	38	28	29	14	24	22	20	14	16	2	14.3%
	触法少年（特別法）	7	5	19	8	15	5	5	1	4	8	4	100.0%
	うち女子	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	-
	ぐ犯少年	25	14	21	15	13	20	9	21	20	13	-7	-35.0%
	うち女子	8	8	8	7	9	13	3	8	10	9	-1	-10.0%
不良行為少年	12,984	10,713	9,595	7,780	7,851	12,667	11,338	9,731	9,391	9,455	64	0.7%	
うち女子	2,728	2,318	2,037	1,601	1,414	2,304	2,111	1,995	2,125	2,505	380	17.9%	

(2) 市町村別人口比

- 刑法犯少年の居住市町村別の人口比は、**常総市**が3.4人で最も多く、次いで**石岡市**が3.2人でした。
- 県内人口比「1.7」を上回った市町村は17市町村あり、特に**県西、県南地域**に平均を上回る市町村が集中しています。
- **稲敷市、結城市、大洗町、境町、城里町、五霞町、大子町**居住の刑法犯少年の検挙はありません。



	総人口		少年人口		刑法犯少年		刑法犯少年の人口比	
	(人)	前年比	(人)	前年比	(人)	前年比	(人)	前年比
常総市	59,647	-690	3,513	-80	12	6	3.4	+1.7P
石岡市	73,110	-773	4,090	-124	13	4	3.2	+1.1P
土浦市	138,517	-897	7,801	-165	23	4	2.9	+0.5P
利根町	15,403	-229	719	-2	2	1	2.8	+1.4P
取手市	104,667	-462	5,207	-87	14	5	2.7	+1.0P
美浦村	14,612	-314	775	-57	2	-1	2.6	-1.0P
河内町	8,448	-192	422	-42	1	1	2.4	+2.4P
下妻市	41,964	-345	2,553	-34	6	3	2.4	+1.2P
筑西市	100,816	-968	5,924	-187	13	-5	2.2	-0.7P
茨城町	31,906	-197	1,833	-88	4	0	2.2	+0.1P
守谷市	67,696	820	4,211	87	9	-2	2.1	-0.6P
桜川市	39,692	-791	2,371	-78	5	-1	2.1	-0.3P
銚田市	46,415	-426	2,428	-111	5	-1	2.1	-0.3P
つくば市	240,987	3,948	13,277	-63	26	-2	2.0	-0.1P
古河市	139,274	-579	7,821	-69	15	2	1.9	+0.3P
阿見町	47,755	185	2,665	-47	5	-9	1.9	-3.3P
北茨城市	42,122	-559	2,263	-113	4	2	1.8	+1.0P
笠間市	74,334	-696	4,125	-98	7	-1	1.7	-0.2P
つくばみらい市	50,870	195	2,389	19	4	2	1.7	+0.9P
日立市	176,069	-2,589	10,477	-420	16	-7	1.5	-0.6P
水戸市	269,661	-628	14,667	-288	21	-25	1.4	-1.7P
那珂市	53,361	-224	3,011	-108	4	-3	1.3	-0.9P
高萩市	27,863	-420	1,565	-90	2	-2	1.3	-1.1P
かすみがうら市	40,833	-298	2,414	-39	3	-4	1.2	-1.7P
鹿嶋市	67,448	-130	3,780	-243	4	0	1.1	+0.1P
小美玉市	49,200	-456	2,888	-19	3	1	1.0	+0.3P
常陸大宮市	39,904	-843	2,097	-65	2	0	1.0	+0.1P
坂東市	51,903	-656	3,182	-76	3	-12	0.9	-3.7P
神栖市	95,370	170	5,750	-79	5	0	0.9	±0P
牛久市	84,637	-148	4,624	-77	4	-3	0.9	-0.6P
東海村	37,702	86	2,525	-14	2	-7	0.8	-2.7P
八千代町	21,214	-236	1,309	-21	1	-3	0.8	-2.2P
ひたちなか市	155,080	-601	9,648	-299	7	-10	0.7	-1.0P
潮来市	27,807	-420	1,508	-53	1	-2	0.7	-1.2P
龍ヶ崎市	76,741	-337	4,579	-72	3	-14	0.7	-3.0P
行方市	32,604	-700	1,787	-32	1	0	0.6	+0.1P
常陸太田市	48,758	-1,009	2,483	-173	1	-2	0.4	-0.7P
稲敷市	39,854	-780	2,049	-38	0	-3	0.0	-1.4P
結城市	50,817	-343	2,833	-35	0	-7	0.0	-2.4P
大洗町	15,992	-240	915	-10	0	-1	0.0	-1.1P
境町	24,098	-205	1,450	-74	0	-7	0.0	-4.6P
城里町	18,429	-334	1,001	-44	0	-2	0.0	-1.9P
五霞町	8,319	-51	418	-2	0	0	0.0	±0P
大子町	16,142	-540	692	-48	0	0	0.0	±0P
不定・県外	-	-	-	-	25	-19	-	-
県内合計	2,868,041	-14,902	162,039	-3,758	278	-124	1.7	

注：総人口は、茨城県政策企画部統計課の「茨城県常住人口調査（茨城県の年齢別人口）」（令和元年10月1日現在）から抜粋しました。

又、少年人口については、14～19歳までの人口を合計しました。

2 全国との比較

(1) 刑法犯少年（触法少年を含む。）の推移

刑法犯少年(触法少年を含む。)は、全国、本県とも減少が続いており、平成10年頃に迎えた第4のピークと比較して、それぞれ8割以上減少し、統計開始以降最少を更新しています。

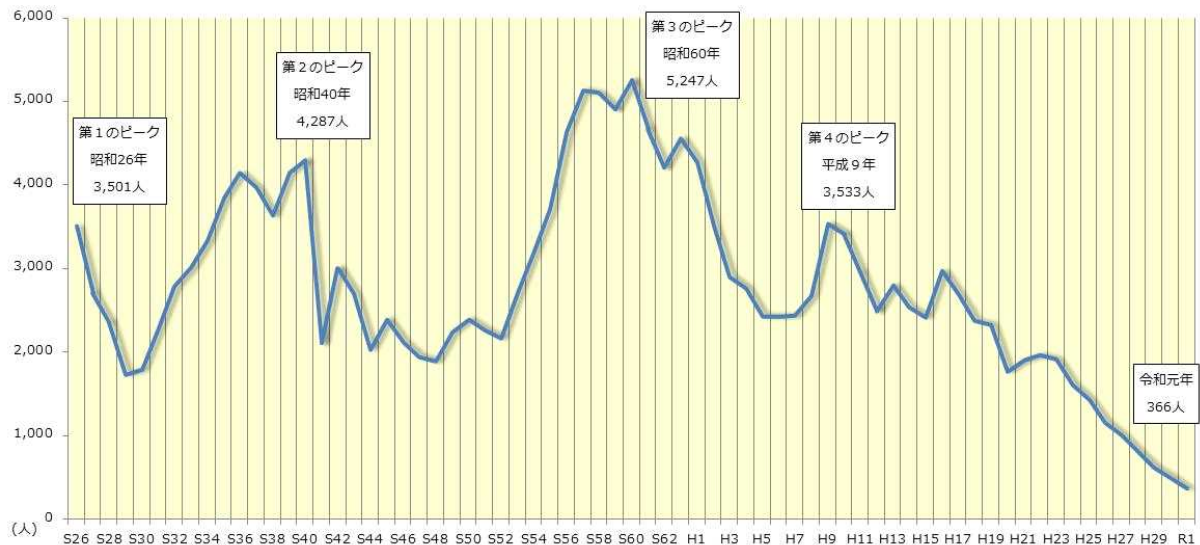
【全国】

令和元年中の刑法犯少年(触法少年を含む。)は26,076人で、平成10年の第4のピークに比べ、158,214人(85.9%)減少しました。



【茨城】

令和元年中の刑法犯少年(触法少年を含む。)は366人で、平成9年の第4のピークに比べ、3,167人(89.6%)減少しました。





戦後から現在に至るまでの少年非行の情勢

戦後の少年非行は、その時代の社会情勢を背景として、4つの大きな波を形成しながら推移し、今日に至っています。

○ 第1のピーク（戦後の混乱期）

終戦直後の社会的混乱や道徳的退廃、経済的困窮により、年長少年による窃盗等の財産犯が多発した時期です。

全国、本県とも**昭和26年**に第1のピークがありました。

○ 第2のピーク（経済の高度成長期）

急激な経済成長に伴う都市化・核家族化が問題になり始め、こうした社会の変化に対応できなかった少年らによる凶悪犯、粗暴犯が多発した時期です。

全国では**昭和39年**、本県では**昭和40年**に第2のピークがありました。

○ 第3のピーク（経済の安定成長期）

オイルショック等により経済環境に大きな変化があり、「受験戦争」という言葉が生まれるなど、価値観の多様化が進み、経済的に豊かになる一方、少年非行が低年齢化し、「遊び型非行」とも言われる初発型非行が急増した時期です。

全国では**昭和58年**、本県では**昭和60年**に第3のピークがあり、刑法犯少年の検挙・補導人数はいずれも統計開始以降**最多**でした。

○ 第4のピーク（社会構造の変換期）

バブル経済の崩壊により社会経済が大きく変化していく中で、「親父狩り」といわれる路上強盗、「普通の子」が突然凶行に及ぶという凶悪犯罪が多発して社会的問題になった時期です。

全国では**平成10年**、本県では**平成9年**に第4のピークがありました。

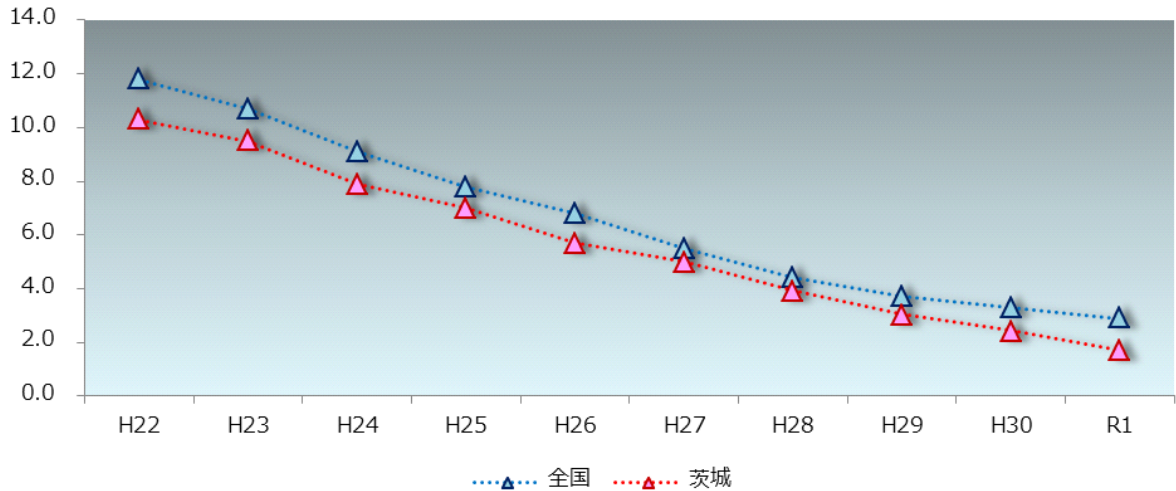
○ 近年の情勢

全国では平成16年から16年連続、本県では平成23年から9年連続で刑法犯少年が減少しており、いずれも統計開始以降最少を更新し続けています。

しかし、大麻等の薬物事犯で検挙される少年が全国的に増加傾向にあり、また、スマートフォンの普及等により、SNSに起因した少年の犯罪被害の増加や、少年の性を売り物とする新たな形態の営業の出現等、近年の少年を取り巻く社会環境は、未だに憂慮すべき状況にあります。

(2) 人口比の推移

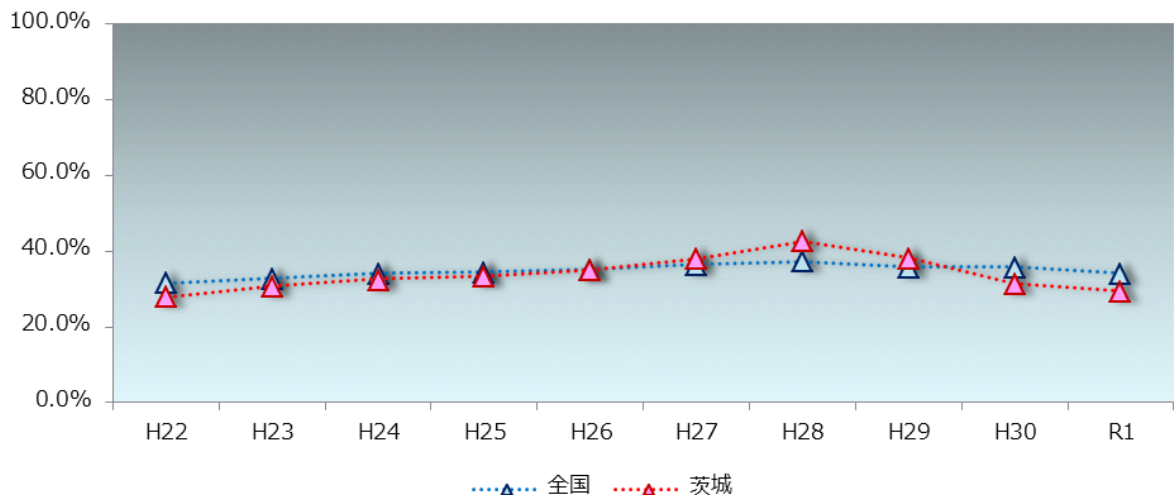
人口比は、全国、本県とも減少が続いており、令和元年中は、全国が2.9人で前年に比べ0.4人、本県が1.7人で前年に比べ0.7人、それぞれ**減少**しました。



		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全国	刑法犯少年	85,846	77,696	65,448	56,469	48,361	38,921	31,516	26,797	23,489	19,914
	人口比	11.8	10.7	9.1	7.8	6.8	5.5	4.4	3.7	3.3	2.9
茨城	刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278
	人口比	10.3	9.5	7.9	7.0	5.7	5.0	3.9	3.0	2.4	1.7

(3) 再犯者率の推移

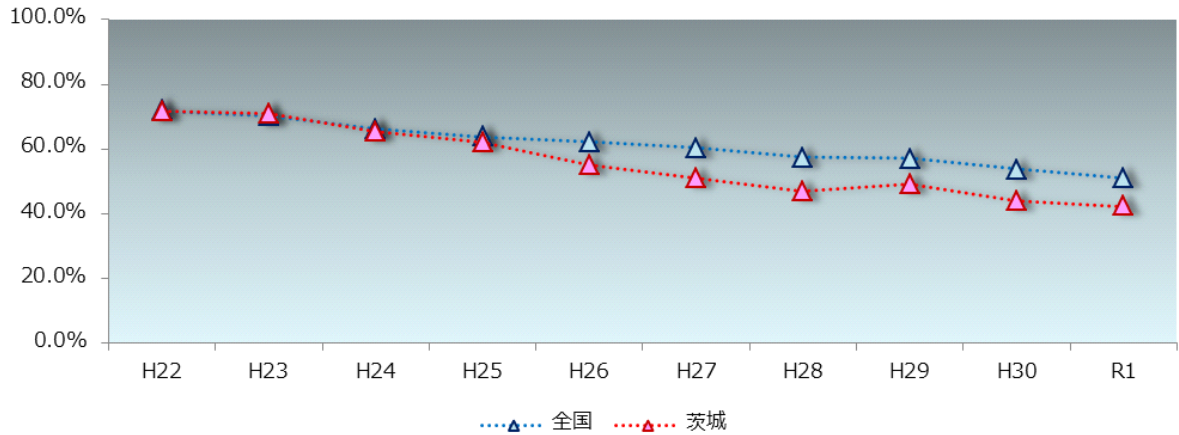
刑法犯少年の再犯者率は、本県は平成29年から低下が続いており、令和元年中は、全国が34.0%で前年に比べ1.5ポイント、本県が29.1%で前年に比べ2.0ポイント、それぞれ**低下**しました。



		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全国	再犯者数	27,050	25,435	22,179	19,345	16,888	14,155	11,696	9,510	8,335	6,773
	再犯者率	31.5%	32.7%	33.9%	34.3%	34.9%	36.4%	37.1%	35.5%	35.5%	34.0%
茨城	再犯者数	500	507	447	402	343	321	283	195	125	81
	再犯者率	27.8%	30.5%	32.3%	33.1%	34.9%	37.9%	42.6%	38.0%	31.1%	29.1%

(4) 刑法犯少年に占める初発型非行の割合（構成比）の推移

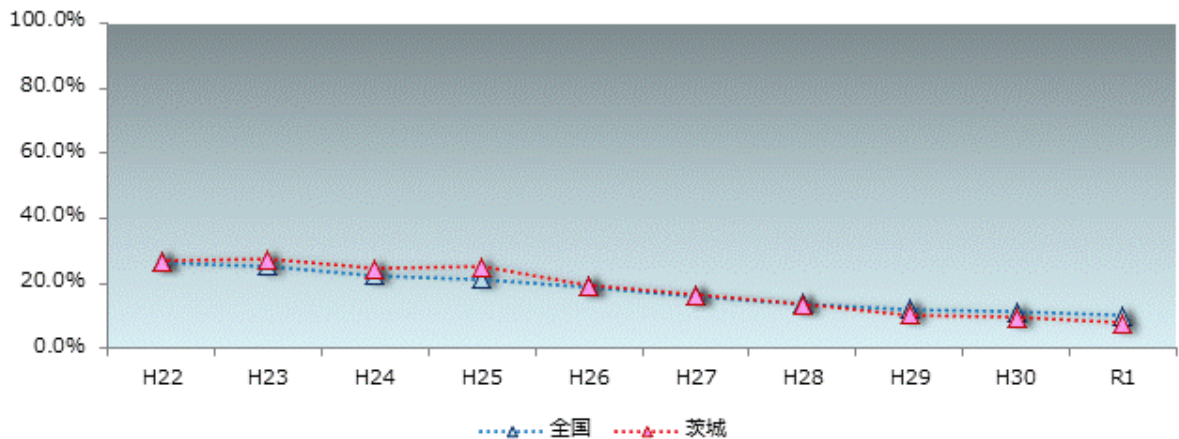
刑法犯少年に占める初発型非行の割合(構成比)は、全国は平成22年から低下が続いており、本県においても平成22年以降減少傾向にあり、令和元年中における本県の構成比は42.4%で、前年に比べ1.6ポイント低下しました。



		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全国	刑法犯少年	85,846	77,696	65,448	56,469	48,361	38,921	31,516	26,797	23,489	19,914
	初発型非行	61,799	54,569	43,302	36,021	30,037	23,458	18,045	15,247	12,616	10,153
	構成比	72.0%	70.2%	66.2%	63.8%	62.1%	60.3%	57.3%	56.9%	53.7%	51.0%
茨城	刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278
	初発型非行	1,293	1,175	905	756	542	432	313	253	177	118
	構成比	71.9%	70.8%	65.4%	62.2%	55.1%	50.9%	47.1%	49.3%	44.0%	42.4%

(5) 刑法犯総検挙人員に占める少年の割合（構成比）の推移

刑法犯総検挙人員に占める少年の割合(構成比)は、全国は平成22年から、本県は平成26年から低下しています。



		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全国	総検挙人員	322,620	305,631	287,021	262,486	251,115	239,355	226,376	215,003	206,094	192,607
	刑法犯少年	85,846	77,696	65,448	56,469	48,361	38,921	31,516	26,797	23,489	19,914
	構成比	26.6%	25.4%	22.8%	21.5%	19.3%	16.3%	13.9%	12.5%	11.4%	10.3%
茨城	総検挙人員	6,643	6,032	5,611	4,809	5,068	5,141	4,873	4,909	4,237	3,562
	刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278
	構成比	27.1%	27.5%	24.6%	25.3%	19.4%	16.5%	13.6%	10.5%	9.5%	7.8%

(6) 都道府県別刑法犯少年（触法少年を含む）の検挙・補導状況

令和元年中における都道府県別刑法犯少年（触法少年を含む。）の検挙・補導人員は下表のとおりで、本県は全国で17位でした。

順位	都道府県	総数（人）	刑法犯少年	触法少年（刑法）
1	警視庁	3,598	2,548	1,050
2	大阪	2,556	2,089	467
3	愛知	1,581	1,338	243
4	兵庫	1,538	1,055	483
5	神奈川	1,506	1,409	97
6	福岡	1,363	1,178	185
7	埼玉	1,302	1,176	126
8	千葉	1,021	948	73
9	北海道	1,005	674	331
10	広島	769	481	288
11	静岡	720	528	192
12	京都	563	383	180
13	岡山	555	375	180
14	沖縄	521	314	207
15	岐阜	400	295	105
16	奈良	372	262	110
17	茨城	366	278	88
18	新潟	345	264	81
19	群馬	339	283	56
20	滋賀	336	232	104
21	熊本	323	228	95
22	長野	303	214	89
23	宮城	302	245	57
24	愛媛	301	181	120
25	栃木	278	231	47
26	山口	276	220	56
27	鹿児島	247	160	87
28	三重	237	215	22
29	福島	230	145	85
30	富山	229	169	60
31	和歌山	225	159	66
32	香川	220	163	57
33	長崎	194	127	67
34	宮崎	180	120	60
35	岩手	177	90	87
36	山形	173	107	66
37	石川	162	106	56
38	山梨	157	134	23
39	高知	155	94	61
40	佐賀	144	98	46
41	青森	134	83	51
42	鳥取	122	88	34
43	島根	122	71	51
44	徳島	121	106	15
45	大分	120	108	12
46	福井	99	84	15
47	秋田	89	58	31
合計（令和元年）		26,076	19,914	6,162
合計（平成30年）		30,458	23,489	6,969
増減数（人）		-4,382	-3,575	-807
増減率（%）		-14.4%	-15.2%	-11.6%

